

Q 36

気胸を確定できる所見とは何ですか？

A 36



- 唯一の陽性所見である lung point を見つける (図1, 動画1)

■ 解説

エコーでの気胸診断が難しい点は、陰性所見の積み重ねによって診断に迫らなければいけないところにあります。正常では見えるはずの lung sliding がない, lung pulse がない, B-line がない, comet tail artifact がない, といった陰性所見を積み重ねるわけです。このような診断は実際の臨床現場で判断を迷わせることが多く、「本当にないのか？ 描出が悪くて見えないのだろうか？」という不安に駆られてしまいます。どんなことでもそうですが、「見える」と断言するよりも「見えない」と断言するほうが難しいでしょう。そんな中で、唯一の陽性所見とも言える所見がこの lung point です。

lung point の機序

この所見があれば、気胸はほぼ確定です。lung point は、lung sliding が見える部位と lung sliding が見えない部位の境界を指します。気胸といっても、臓側胸膜、壁側胸膜の間に均一に空気が溜まるわけではありません。図2のCT画像を見れば一目瞭然でしょう。患者さんが仰臥位の時、空気は重力の影響を受けて前胸部側に溜まり、前胸部の lung sliding は消失します。しかし、背側の臓側胸膜と壁側胸膜はまだ隣接しているため、背側では lung sliding が見える場所があります。この境目が lung point です。つまり、通常 lung point は側胸部で描出できます (描出方法は図Q33)。ピットフォールは、肺が完全に虚脱した場合です。気胸であっても背側の胸膜腔まで空気が貯留してしまうと lung point は見えません。

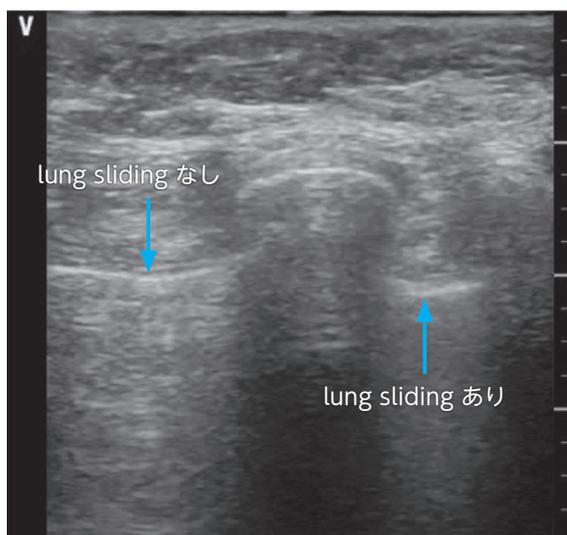


図1 » lung point

肋骨直下付近に lung sliding 有無の境界線がある。

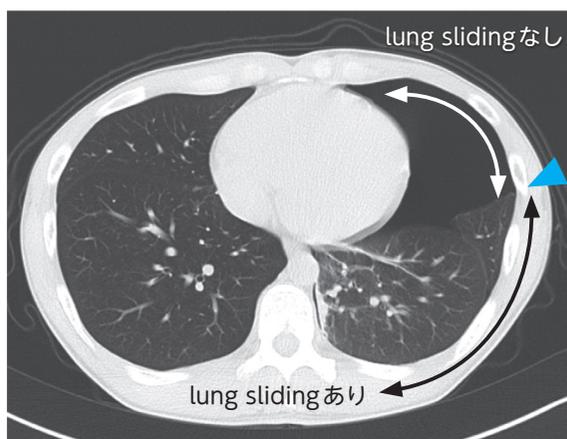


図2 » lung pointの機序

ブラと気胸の鑑別

胸膜が癒着していると、臓側胸膜が壁側胸膜と近接したまま動かないのでlung slidingは消失します。ブラ直上の胸膜は癒着している可能性があります。結果として、ブラに一致して局所的にlung slidingが消失する可能性があります。場合によっては、lung pointのような所見が見える可能性もあります。仰臥位であれば、通常の気胸では重力に従い空気は上へ行くため、前胸部全般のlung slidingが消失します。以上より、ブラと気胸の鑑別はlung slidingの消失部位の局在を見て冷静に判断する必要があります。

(吉田拓生)